

後期奥田言語学の 構想

—未公刊資料から見えるその全貌—

2023 年 2 月 14 日（火）

13 時 開会（司会：宮崎和人（岡山大学教授））

13 時 5 分～13 時 35 分

講演 1 山東功（大阪公立大学教授）「言語学と出版—奥田靖雄とむぎ書房—」

13 時 35 分～14 時 15 分

講演 2 佐藤里美（言語学研究会）高瀬匡雄（言語学研究会）
「著作集の構成と補遺編の概要」

14 時 15 分～14 時 30 分 休憩

14 時 30 分～15 時 55 分

講演 3 工藤眞由美（大阪大学名誉教授）「奥田靖雄の文論研究の軌跡」

15 時 55 分 閉会挨拶

16 時 閉会

参加料無料（定員 100 名（申し込み先着順））

申込期限 2023 年 1 月 31 日（火）

参加をご希望の方は申し込みフォーム（下記 URL または QR コード）からお申し込みください。後日、Zoom 会議の URL と ID、パスワードをお送りいたします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdGnjEL47hNcOChwdINE9DCINDP55aM5P4VdkWewJ1o7HYKgA/viewform?usp=sf_link



問い合わせ先

k_miya@okayama-u.ac.jp

宮崎和人

言語学者奥田靖雄の晩年の言語研究の中心をしめるのは、発話論、プラグマティカへとつながる、文論に関するものでした。その始まりは、1984 年発表の論文「文のこと」に求めることができますが、遡っていけば、宮城教育大学へ赴任した仙台時代の講義ノートに、その萌芽が見られます。しかしながら、こうした奥田の文論についての展開の軌跡は、未刊行の資料が多かったことから、これまであまり注目されてきませんでした。

このたび、むぎ書房より『奥田靖雄著作集 補遺編』が刊行され、奥田の言語研究の全貌が一層明らかになりました。今回の講演会では、仙台時代における奥田の言語研究や著作集編集・刊行の現場を踏まえつつ、発話論、プラグマティカへとつながる、奥田の文論の展開の軌跡をたどることを通して、この期の奥田の思索に関する言語学的意義について探求したいと思います。

主催 岡山大学文学部現代日本語学領域